資料８

令和２年度　札幌市医療的ケア児等支援者養成研修
報告書

2021 年 3 月

医療法人稲生会

目次

I　講義概要 4

II　参加者総数 8

III　参加者の所属 8

IV　参加者の職種 9

V　医療的ケア児等との関わり 10

VI　受講した理由（複数回答） 10

VII　研修全体について 11

VIII　印象に残った講義について（３項目選択） 11

IX　情報交換セッション参加状況 12

X　情報交換セッションの感想 13

1. オンラインによるセッションの開催について 13
2. 多職種混合のグループセッションについて 14
3. 継続的な開催の希望 15
4. オンライン接続時のトラブル等について 16
5. グループセッションの時間配分について 16
6. オンラインセッション全体の内容について 17

XI　オンラインでの講義受講（YOUTUBE 限定公開や URL の案内、テキスト配信等を含む）について 17

1. 講義時間について 18
2. オンラインによる講義視聴について 18
3. テキストについて 19
4. YOUTUBE による講義動画の限定配信について 20
5. その他 21

XII　オンラインでの小テスト（GOOGLE フォームの利用状況を含む）について 21

1. 問題内容について 21
2. GOOGLE フォームを活用した点について 22
3. 小テスト全体について 23

XIII　その他研修会全体を通じてお気づきになったこと 24

1. 全体についての感想 24
2. 今後の希望 25
3. 今後の提案 25
4. その他 26

XIV 医療的ケア児者の支援について、今後、必要なこと 26

1. 多職種/多機関連携 26
2. 支援の選択肢の充実 27
3. 普及啓発 27
4. 医療職の配置 28
5. 研修の機会 28
6. 人材育成/待遇改善 29
7. 相談窓口/コーディネーター 29
8. 当事者理解 30
9. その他 31

XV 来年度も本研修会を受講するとしたら、特に取り上げてほしい（アップデートしてほしい）講義 31

1. 法制度/行政の動向 31
2. 学校卒業後の生活 32
3. 事例検討/支援現場の実態 32
4. 当事者/家族支援 32
5. 現状の掘り下げ 33
6. その他 33

I 講義概要

医療の進歩に伴って、日常的に医療を必要としながら在宅で生活をする子どもたち（医療的ケア児等）の数が札幌市内でも増えつつある。かれらの地域生活には、医療のみならず、成長発達に添った福祉、保育、療育、教育、社会参加その他領域の重層的・継続的な支援が必要とされる。そこで今年度においては ICF の概念を基軸として、当事者および家族そして関連分野の専門職としての視点から、支援の在り方を学ぶ札幌市医療的ケア児等支援者養成研修会（以下、本研修会）を企画した。

研修目的：医療的ケア児等の支援に関する専門研修を実施することで、札幌市内の医療的ケア児等の現状についての理解を促すとともに、医療的知識を含め、適切な支援の方法を伝えることにより、医療的ケア児等を支援可能な者を養成することを目的とした。

研修対象：原則、札幌市内で医療的ケア児等に関わる支援業務を行っている（又は行うことを検討している）方々を対象とした。過去の受講歴は問わなかった。

募集期間：2020 年 11 月 2 日（月）から 2020 年 11 月 30 日（月）

開講時期：2020 年 12 月 14 日（月）から 2021 年 1 月 31 日（日）

オンライン講義：期間中に YouTube に限定公開する講義ビデオを視聴

小テスト：各講義視聴後には Google Forms による小テストを実施

修了証発行要件：全講義の視聴を修了し、オンライン情報交換セッションに参加した札幌市内の受講者に「修了証」を発行

オンライン情報交換セッション：下記 3 候補の中から選択して参加いただいた。

① 2021 年 1 月 14 日（木）18:00-19:30
② 2021 年 1 月 15 日（金）15:00-16:30
③ 2021 年 1 月 23 日（土）13:00-14:30

各講義の概要及び講師は表１のとおり。

表１ 講義一覧表

	内容	時間	講師氏名	職種/所属
1	国・道内の医ケア児等への支援体制整備の現状・課題 札幌市の医療体制（二次医療圏域・医療機関同士の連携）の現状・課題	30分	土畠 智幸	医師/稲生会
2	医ケア児等コーディネーターに期待する行動及び役割 医ケア児等の成長と発達を見通した支援体制整備の視点	30分	高波千代子	社会福祉士/稲生会
3	子どもの状態像	30分	土畠 智幸	医師/稲生会
4	みんなで作る医療安全	30分	鈴木 大真	医師/稲生会
5	多職種連携の基本的知識　事例）NICUからの在宅移行	30分	佐々木 恵	看護師/稲生会
6	訪問看護の仕組み・日常生活における医療的ケア	30分	松木 由理	看護師/稲生会
7	障害を持つ子どもの親となることを支援する視点 事例）暮らしの再構築を中心とした家族支援	30分	松木 由理	看護師/稲生会
8	事例）看取りへの支援	30分	三宅 のえる	医師/稲生会
9	ICFを活用した支援の意義と必要性	30分	伊西 夏恵	OT/稲生会
10	ICF身体機能と構造①子どもの育ちと定型発達 よく出会う医ケア児等の発達の特徴	30分	川村 健太郎	医師/稲生会
11	ICF身体機能と構造②粗大、微細運動と感覚の関係性	30分	羽根川 哲夫	PT／稲生会
12	ICF身体機能と構造③口腔内を整える	30分	高井 理人	歯科医師/稲生会
13	想定される職種・法律上できること・できないこと	30分	土畠 智幸	医師/稲生会
14	ICF身体機能・構造・活動・参加を支える制度資源（環境の整備） ①家族支援・虐待及びようたいきょう（児相）・権利擁護 ②困窮者支援・親の就労支援	30分	鈴木 菜摘子	看護師/稲生会
15	ICF身体機能・構造・活動・参加を支える制度資源（環境の整備） ③災害支援体制の基本的な考え方	30分	目黒 祐美子	社会福祉士/稲生会
16	医療的ケア児を支える短期入所	30分	米川 史恵 さん	福）楡の会 こどもクリニック
17	児童発達支援について	30分	宮本 佳江 さん	NPO法人ソルウェイズ
18	医療的ケア児等の遊び・保育 どんぐりの森における実践 ICF活動①遊びと生活体験・発達支援	30分	礒邊 智	保育士/稲生会
19	ICF活動②コミュニケーション	30分	澤頭 荘子	ST/稲生会
20	ICF参加①教育就学先決定のプロセス、学校看護師の対応、訪問看護等の導入、特別支援学校で行われる医療的ケア、特別支援教育コーディネーター	30分	伊西 夏恵	OT/稲生会
21	医療的ケア児の家族の思いの理解	30分	関家 あゆみ さん	ご家族
22	成人期における支援 ICF参加②就労支援	45分	梅村 圭 伊西夏恵	介護福祉士/稲生会 OT/稲生会
23	事例）医療的ケアを行いながらの地域参加を支援する	15分	山崎 薫	看護師/稲生会
24	医療的ケアを必要とする当事者の思いの理解	30分	吉成 亜実 さん	当事者
25	感染対策（新型コロナウィルスを中心に～）	30分	橋本 弥恵	看護師/稲生会
※	情報交換セッション：講師とともに参加者が連携をとるきっかけとして、情報交換や実践事例の共有などを行う	90分	事務局 各講師	稲生会
	合計時間数	840分		

なお、各講義の内容と厚労省の示す「別表」の対応は表２のとおり。

表２ 厚労省の示す「別表」と本研修会における講義の対応関係

科目名	内容	講義項目 1～26（オンラインセッションを含む）の概要
１総論	・医療的ケア児等支援の特徴 ・支援に必要な概念	1. 国･道内の医ケア児等への支援体制整備の現状･課題や札幌市の医療体制（二次医療圏域・医療機関同士の連携）の現状・課題について 2. 医ケア児等コーディネーターに期待する行動及び役割や医療的ケア児等の成長と発達を見通した支援体制整備の視点について
２医療	・障害のある子どもの成長と発達の特徴 ・疾患の特徴 ・生理 ・日常生活における支援 ・救急時の対応 ・訪問看護の仕組み	3. 医療的ケアを必要とする子どもの状態像について 4. 医療的ケア児者を在宅で支援するうえでの医療安全について 6. 訪問看護の仕組みや日常生活における医療的ケアについて 8. 医療的ケア児の看取りへの支援について（小児科医の事例紹介） 21. 医療的ケア児の家族の思いの理解について 23. 医療的ケアを行いながらの地域参加の支援について（保育園の入園支援事例をもとに） 24. 医療的ケアを必要とする当事者の思いについて自立生活当事者による講義にて学ぶ 25. 医療的ケア児者の支援における感染対策について（新型コロナウィルスを中心に）
３福祉	・本人・家族の思いの理解 ・支援の基本的枠組み ・福祉の制度 ・遊び・保育 ・家族支援 ・虐待	7. 障害を持つ子どもの親となることを支援する視点を暮らしの再構築を中心とした家族支援の事例をもとに 14. ICF 身体機能・構造・活動・参加を支える制度資源（環境の整備）①家族支援･虐待及びようたいきょう（児相）･権利擁護②困窮者支援･親の就労支援について 16. 医療的ケア児を支える短期入所について社会福祉法人楡の会の現状とともに学ぶ 17. NPO 法人ソルウェイズの取り組みとともに児童発達支援について学ぶ 18. 医療法人稲生会の取り組みを通じて医療的ケア児等の遊び・保育について学ぶ（ICF 活動①遊びと生活体験・発達支援） 19. 障害児のコミュニケーションの発達支援について（ICF 活動②コミュニケーション）
４連携	・小児在宅医療における多職種連携 ・連携・協働の必要性	5. 多職種連携の基本的知識を NICU からの在宅移行事例とともに学ぶ 13. 想定される職種の法律上できることやできないことについて整理 15. 医療的ケア児等の支援に関わる災害支援体制の基本的な考え方について（ICF 身体機能・構造・活動・参加を支える制度資源（環境の整備）） 26. 情報交換セッションとして、講師とともに参加者が連携をとるきっかけとして情報交換や実践事例の共有などを行う
５ライフステージにおける支援	・各ライフステージにおける相談支援に必要な視点 ・NICUからの在宅移行支援 ・児童期における支援 ・学齢期における支援 ・成人期における支援 ・医療的ケアの必要性が高い子どもへの支援	9. ICF を活用した支援の意義・必要性について総論を学ぶ 10.子どもの育ちと定型発達について学び、医療的ケア児等の発達の特徴を理解する（ICF 身体機能と構造①） 11. 粗大、微細運動と感覚の関係性について（ICF 身体機能と構造②） 12. 口腔ケアについて小児在宅歯科医療を展開する歯科医師による講義（ICF 身体機能と構造③） 20. 教育就学先決定のプロセスや学校看護師の対応、訪問看護等の導入、特別支援学校で行われる医療的ケア、特別支援教育コーディネーターについて（ICF 参加①） 22. 成人期における支援や就労支援について（ICF 参加②）

また、各講義の概要は表３のとおり。

表 3 各講義の概要

番号	講義タイトル	概要
1	国・道内の医ケア児等への支援体制整備の現状・課題 札幌市の医療体制(２次医療圏域・医療機関同士の連携)の現状・課題	急増する医療的ケア児を支援するため、全国で体制整備が進んでいる。大都市である札幌市では、対象者が多いため個別の対応が不十分であることが課題である。トランジション（高校卒業後の児から者への移行）も大きな課題であることを確認した。
2	医ケア児等コーディネーターに期待する行動及び役割 医療的ケア児等の成長と発達を見通した支援体制整備の視点	国の定める医療的ケア児等コーディネーターの役割を学ぶとともに、医療的ケア児等を対象とした支援体制を整備するうえで、あまねく全ての子どもが保有する権利の意識を支援者が携える重要性について確認した。
3	子どもの状態像	医療的ケア児の状態像は疾患群ごとに異なるが、重症心身障害児が多いものの、3人に1人は「動く医療的ケア児」である。また、重症度ごと、年齢ごとに必要となる医療的ケアが大きく異なることを確認した。
4	みんなでつくる医療安全・感染対策	医療的ケア児は医療依存度が高く、生活行為と医療が密接に関係している。安全な生活を送る上で、医療や介護、福祉、教育など分野を超えて支援者同士が安全対策について考える必要があり、ヒヤリハット報告やKYTは有効であることを確認した。
5	多職種連携の基本的知識 事例）NICUからの在宅移行	NICUに入院する医療的ケア児が在宅移行するまでには、家族の自己決定を実現するため社会資源や医療面の準備等を整えていく支援が必要であり、また、小児在宅医療において関わる分野が多岐に渡るため、多機関・多職種での連携が重要となることを確認した。
6	訪問看護の仕組み・日常生活における医療的ケア	小児における訪問看護サービスの診療報酬の内容と在宅移行期からの訪問看護師の関わりを事例により紹介した。後半では医療的ケアの内容や日常の工夫を紹介し子どもたちが生活の場や支援者がかわっても安心安全にケアを受け、過ごすことができるように環境に応じた関わりが重要であることを述べた。
7	障害を持つ子どもの親となることを支援する視点 事例）暮らしの再構築を中心とした家族支援	障害受容の過程は複雑且つ単調ではないことを述べ、家族支援の必要性とそのポイントにつて説明した。また、ライフステージの変化により支援も変化するが、どの時期においても本人や家族の状況・背景を捉え本人や家族と一緒に考える姿勢が重要であることを述べた。
8	事例）看取りへの支援	精神的・肉体的負担の多い医療的ケア児の看取りについて、具体的な症例を交えながらどのように児やご家族に関わっていけばよいのかを考え、また、当院でグリーフサポートの取り組みについても紹介した。
9	ICFを活用した支援の意義と必要性	ICF(国際生活機能分類)の概念に基づき、障害のとらえ方について説明した。特に医学モデルと社会モデルの考え方を対比させることにより、障害が個人の責任に因るものではなく、社会によって創りだされる一面があることを説明した。
10	ICF 身体機能と構造 ①子どもの育ちと定型発達・よく出会う医療的ケア児等の発達の特徴	定型的な発達やその評価方法について学ぶとともに、医療的ケア児の背景にある疾患が多彩であり、発達も多様であることを理解し、個別性の高い子どもたちの発達を支援するための心構えや地域の連携について考えた。
11	ICF 身体機能と構造 ②粗大、微細運動と感覚の関係性	粗大運動、微細運動、感覚とはどのような運動、機能のことか、それぞれの定義について説明した上で、それらの運動と感覚の関係性について医療的ケアのある子どもの具体的な感覚運動経験について説明した。
12	ICF 身体機能と構造 ③口腔内を整える	医療的ケア児は、誤嚥性肺炎や感染性心内膜炎など口腔が全身のリスクになる可能性があるため、歯科疾患にかからない、重症化させないことが重要である。早期からの口腔ケア、歯科の介入を受けることが望ましいという点を確認した。
13	想定される職種・法律上できること・できないこと	医療的ケアは医行為であるが、特定の研修を受講することで介護職員、教員、保育士等の非医療者も実施可能となり、いずれの職種でも、医行為の実施に際しては医師の指示、看護師等との連携が必須であることを確認した。
14	身体機能・構造・活動・参加を支える制度資源(環境の整備) ①家族支援・虐待及びようたいきょう（児相）・権利擁護 ②困窮者支援・親の就労支援	医療的ケア児等の家族を支援するうえで、支援者が携えておくべき権利養護の視点を学び、虐待事例における支援者として求められる関わり方を確認した。また、生活困窮者の支援制度や親の就労支援の重要性について確認した。
15	身体機能・構造・活動・参加を支える制度資源(環境の整備) ③災害支援体制の基本的な考え方	医療的ケア児等が直面する災害時の課題は多岐に渡ること、人工呼吸器等の医療機器の電力確保や避難方法、備蓄、普段からの地域との関係性作りなどについて支援者も留意し、本人達と一緒に考えることが安全に繋がるという点を確認した。
16	短期入所について	社会福祉法人楡の会が運営する短期入所では、状況に応じて緊急受け入れや長期利用も可能であること、また入所中の受診や通学、母子分離による影響への対策が課題となっており、家族の思いに寄り添い、ライフステージに応じた支援を行うため、医療機関をはじめ様々な機関と連携している点を確認した。
17	児童発達支援について	重症児デイサービスは、看護師やセラピストの配置によって医療的ケア児でも安心して利用できるようになっていること、また医療的ケアの提供だけでなく、子どもたちの成長発達を支える場でもあり、どんなに重い障害があっても生まれ育った地域で生きることができるよう支援したいというNPO法人ソルウェイズが運営に寄せる思いを学んだ。
18	医療的ケア児等の遊び・保育　どんぐりの森における実践 ICF活動① 遊びと生活体験・発達支援	遊びは子どもたちの生活の中の大部分を占める重要なものであり、遊びによって様々な面の発達が促されることが期待される。医療的ケア児の発達レベルは個々で違いがあり、発達の道筋もそれぞれである為子どもたち一人一人と向き合いかかわりを持つ必要がある。遊びの実践を個別及び集団遊び行事活動の画像を交え
19	ICF活動② コミュニケーション	コミュニケーションとは何か、ことばはどのように発達していくのかについて述べた。医療的ケア児等のコミュニケーションの特徴については、どのような関わりが大切なのかを考え、コミュニケーションの手法や言語機能に合わせたコミュニケーション機器を紹介した。
20	ICF 参加 ①教育就学先決定プロセス、学校看護師の対応、訪問看護等の導入、 特別支援学校で行われる医療的ケア、特別支援教育コーディネーター	医療的ケア児が就学先を決定する際のプロセス等について、札幌市の現状に添って説明した。なかでも特別支援教育・学校看護師・医療的ケアの実施状況などについて話題提供しながら、昨今の医療的ケア児を取り巻く制度上の変化についても説明した。
21	医療的ケア児の家族の思いの理解	実際に医療的ケア児を育てる母親が実際の経験談や思い（退院前に先輩家族に自宅の様子を見せてもらうとイメージがわきやすい、在宅生活ではやはり体調管理が重要、外出が非常に難しい、トイレの利用も大変、リハビリが重要、家族同士の交流により多くの情報が得られる、色々な経験をさせたいと思う）を共有した。
22-1	成人期における支援	医療的ケアを必要とする成人における支援のあり方を、ひとりの障がい当事者の暮らしから考えた。特に、支援における当事者主体という考え方、自立と依存が対義語ではないことなどを述べた。
22-2	ICF 参加② 就労支援	医療的ケア者が就労しようとする時、どのような制度が利用できるのか、その根拠となる法律について説明した。特に就労先において、医療保険サービスや障害福祉サービスを利用できない現状があることについて、話題提起した。
23	事例）医療的ケアを行いながらの地域参加を支援する	以下の３事例を紹介し、地域参加の支援について考える機会とした。 ・気管切開、24時間呼吸器の必要なお子さんの地域の学校への交流学習：コーディネーター的役割の必要性 ・北海道小児等在宅医療連携拠点事業を通じて、地域の保育園への通園支援の動画：「「できないではなく、どうしたらできるかの発想」「子ども同志の関わり」の大切さ ・当法人で取り組んでいる「みらいつくり大学」の動画：学校卒業後の学びの場を創りたい
24	医療的ケアを必要とする当事者の思いの理解	札幌市内で自立生活を送る当事者本人が支援者に対する思い（支援を押し付けないこと、当事者を一人の人として尊重すること、意図や気持ちを汲み取る姿勢を持ってほしい）を共有し、当事者と支援者が「お互いに」物事を言いやすい関係を構築することが重要であるという点を確認した。
25	感染対策（新型コロナウイルスを中心に）	新型コロナウイルスに対しては、3密（密集、密接、密閉）を避けることが重要である。疑わしい症状がある場合は、サービス利用や出勤を控える必要がある。渡航の際は、感染の流行状況を見ながら、在宅ワークを組み合わせることが望ましいといった点を確認した。

II 参加者総数

本研修会には、申し込み総数 184 名からの申し込みがあり、そのうち 27 名は札幌市外からの申し込みだった。オンライン開催ということもあり、地理的な隔たりに支障がなくなったため受講証発行の対象とならないことをあらかじめ了承いただいたうえでご参加いただいた。札幌市外からの参加は、千歳市、苫小牧市、北見市、帯広市、東京都、横浜市、香港等多岐にわたった。なお、今回の研修会は、全講義小テスト回答者 115 名のうち、道内の受講者 112 名をこの受講者総数とする。

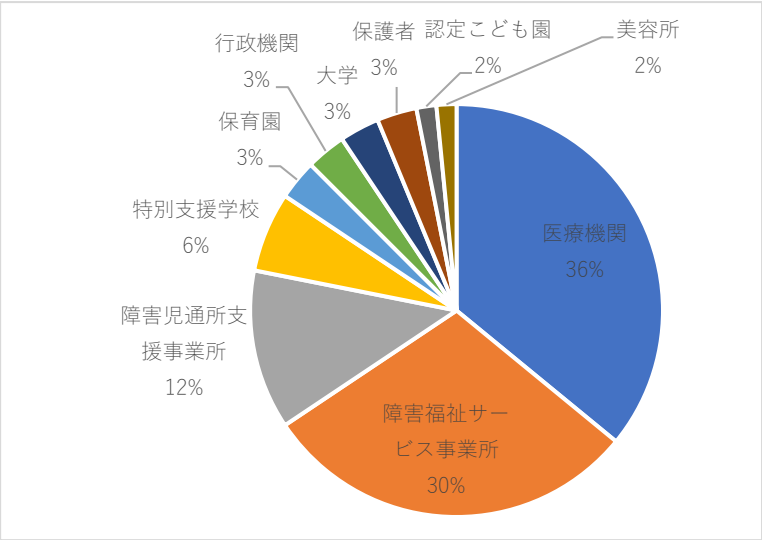
なお次項以降は、受講期間終了後に募集したアンケートの回答に基づくものとする（回答数 64 名）。

・申込総数：184 名（内、札幌市内は 157 名）
・全講義小テスト回答者：115 名（内、札幌市内 107 名）
・情報交換セッション参加者：105 名（内、札幌市内 93 名）
・修了証対象者 87 名（すべて札幌市内）

III 参加者の所属

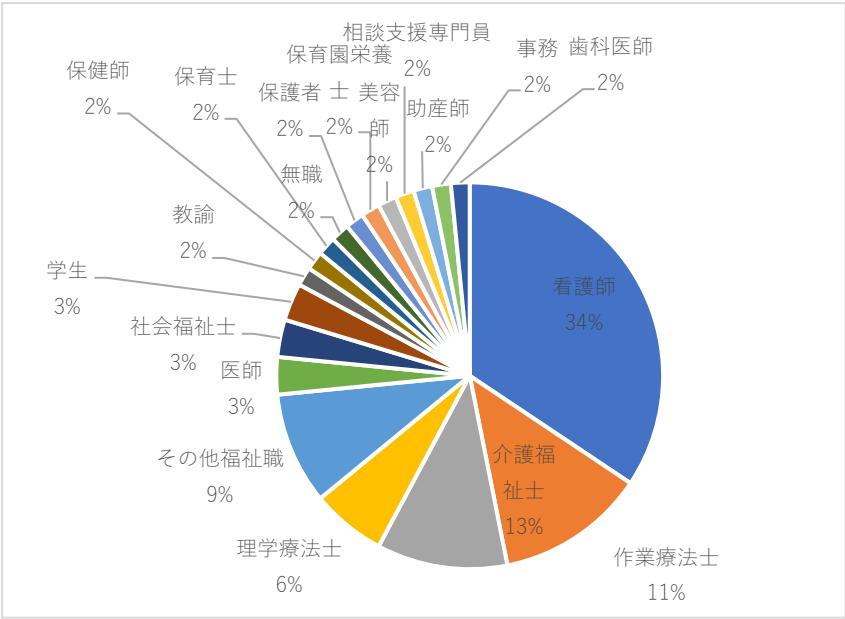
参加者の属性については、医療機関（訪問看護ステーション含む）が 36%、障害福祉サービス事業所が 30%、障害児通所支援事業所が 12%、特別支援学校が 6%、保育園が 3%、行政機関が 3%、保護者が 3%、認定こども園が 2%という結果となった。

障害福祉サービス事業所および障害児通所支援事業所を合わせると 4 割を超え、障害児者福祉の領域が参加者の属性として、最多領域となった。



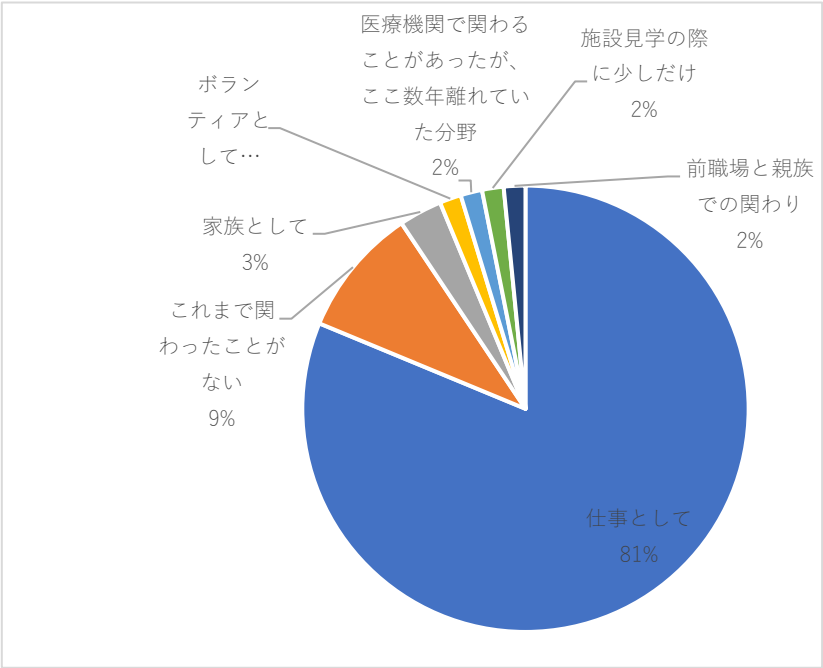
Ⅳ 参加者の職種

参加者の職種は、看護師、保健師、助産師の合計が 38%と最も職種としては参加率が高く、介護福祉士 13%とその他福祉職 9%と合わせると 22%となった。次に作業療法士 11%と理学療法士 6%と続き、社会福祉士 3%と相談支援専門員 2%を合わせると 5%となった。保育士 2 %並びに保育園栄養士 2%といったように保育園関係者の参加もあり、医師 3%と歯科医師 2%の参加もあった。また美容師や教員、学生、事務職員等、多岐にわたる職種の参加があった。



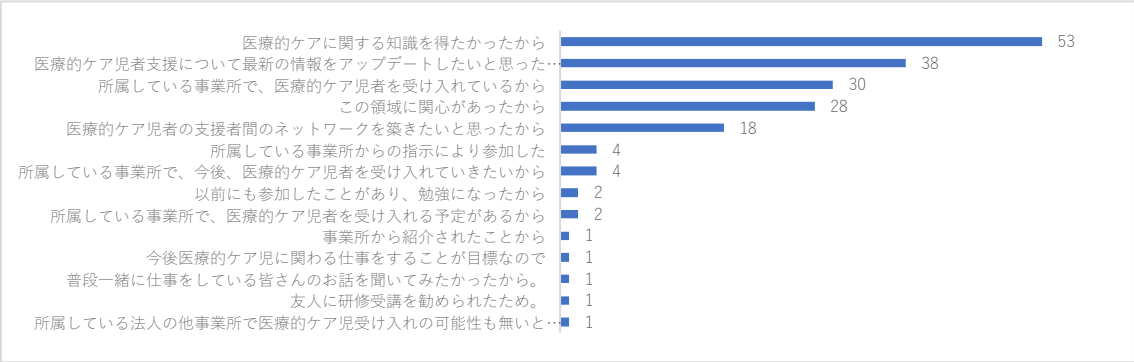
Ⅴ 医療的ケア児等との関わり

医療的ケア児等との関わりについては 8 割が仕事として関わっている方が多く参加されていた。残り 2 割には、以前に関わっていることがあるが現在は現場を離れていたり、施設見学あるいはボランティアとして関わっている方、保護者の参加もあった。これまで関わったことがないという受講者も 9%だった。



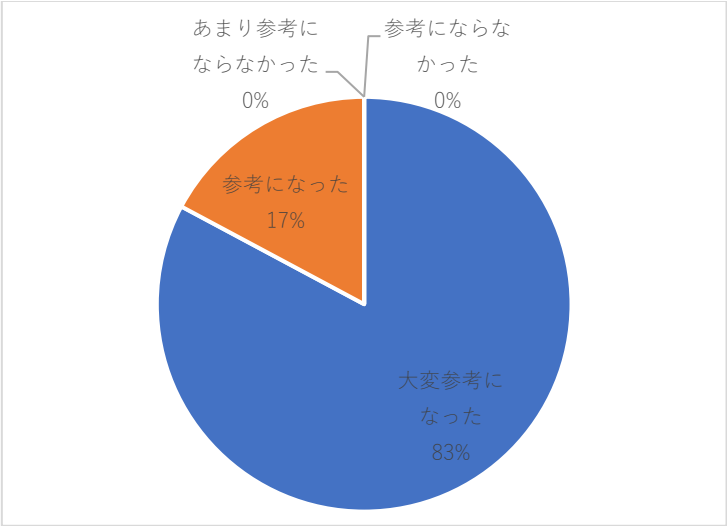
Ⅵ 受講した理由（複数回答）

本研修会を受講した理由として最も多く選択されたのが「医療的ケアに関する知識を得たかったから」（53 名）であり、全回答者の 82%に該当した。次に、医療的ケア児者支援について最新の情報をアップデートしたかった、所属している事業所で医療的ケア児等を受け入れているから、という理由が多く選択されており、医療的ケア児者にすでに関わる支援者の継続的な研修会の開催の必要性がみられた。また、ネットワークを構築したかったからという項目も 18 名の方が選択しており、知識の吸収のみならず、医療的ケア児等に関わる支援者の横の連携の構築に対するニーズの存在も明らかになった。また、今後医療的ケア児等を受け入れていきたい（4 名）と受け入れる予定がある（2 名）という今後の裾野の広がりを示唆する理由への回答もみられた。



VII　研修全体について

研修全体の評価については、「大変参考になった」との回答が 83%、「参考になった」17%と合わせて 100%となり、その他「あまり参考にならなかった」「参考にならなかった」への回答はなく、高い評価を得ることができた。

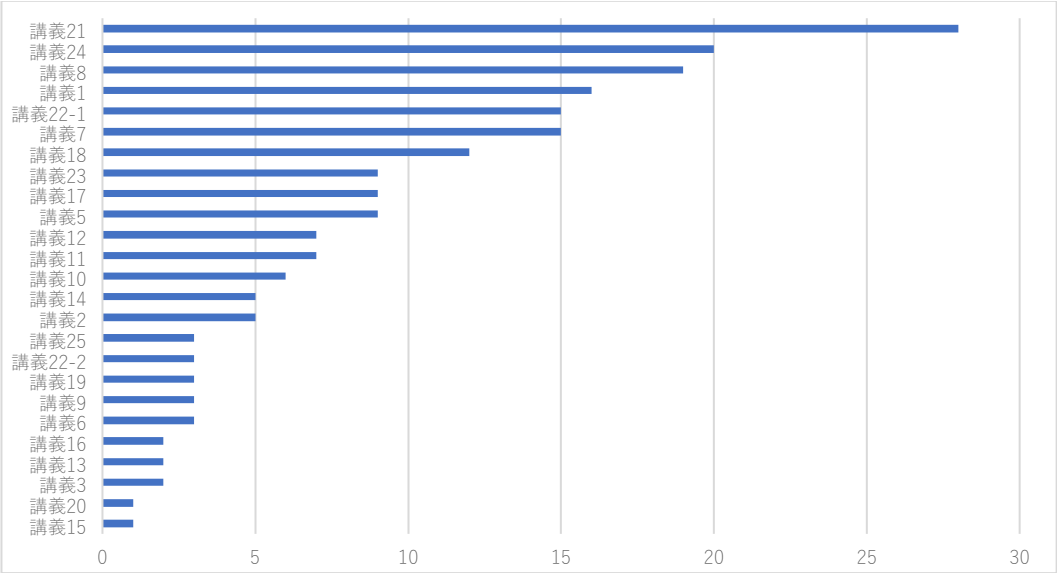


VIII 印象に残った講義について（３項目選択）

全講義 25 コマのなかで、特に印象に残った講義について 3 つ選択いただいたところ、家族介護者（母親）を講師に招いた講義 21「医療的ケア児の家族の思いの理解」と障害当事者を講師に招いた講義 24「医療的ケアを必要とする当事者の思いの理解」と最も多かった 2 講義は、当事者の声を直接聞く講義であった。また、3 番目に位置した講義 8「事例」看取りへの支援」も、看取り支援の事例とともに家族の声を紹介した内容のものであり、3 つともに共通点として当事者の声を紹介する内容であった。次に多かった講義 1「国・道内の医ケア児等への支援体制整備の現状・課題/札幌市の医療体制（二次医療圏域・医療機関同士の連携）の現状・課題」（国や行政の情勢に関する把握）に続き、講義

22-1「成人期における支援」においては成人障害当事者に対する支援に関する講義も関心を集めていることから、小児のみならず成人以降の障害当事者に関わる支援者のニーズもあることが示されたといえる。

なお、動画視聴回数は、全講義 254 件から 567 件まで幅があるものの、申し込み総数よりも視聴回数が多いため、受講者が動画を何度も見返したことが窺える。



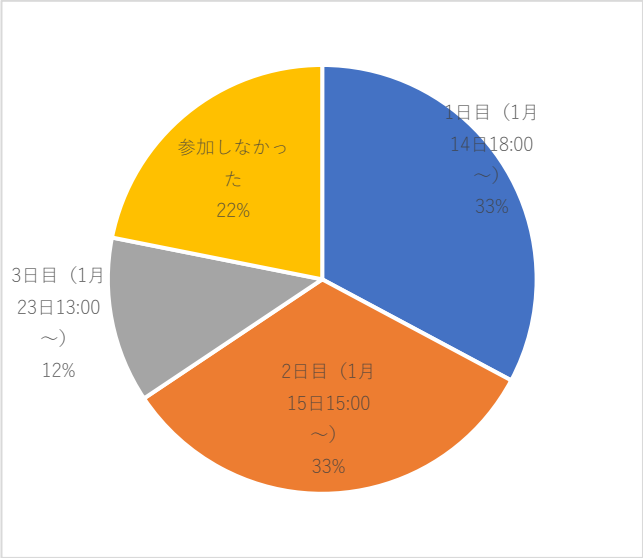
◇ 動画視聴回数

講義 1　567 回	講義 10　344 回	講義 19　329 回
講義 2　484 回	講義 11　315 回	講義 20　303 回
講義 3　403 回	講義 12　288 回	講義 21　317 回
講義 4　366 回	講義 13　278 回	講義 22-1　278 回
講義 5　317 回	講義 14　296 回	講義 22-2　259 回
講義 6　327 回	講義 15　268 回	講義 23　294 回
講義 7　316 回	講義 16　288 回	講義 24　276 回
講義 8　375 回	講義 17　321 回	講義 25　254 回
講義 9　350 回	講義 18　303 回	

IX　情報交換セッション参加状況

本研修会においては、オンライン講義のみならず Zoom を活用した情報交換セッションを開催した。日程については平日の 18 時と 15 時、週末の 13 時と合わせて 3 パターンの時間帯にバリエーションを持たせて案内をした。3 日目となる週末開催は、平日 2 日の

枠では業務等の都合により参加できないという参加者のために後から設けた枠であるが、週末開催のニーズは少なからずあったということが確認できた。なお、参加しなかった参加者の中には、この 3 候補日をもってしても業務の都合がつかないという者もいた。



以下、参加者からの自由回答について一部抜粋にて掲載する。

X　情報交換セッションの感想

1.　オンラインによるセッションの開催について

- コロナ禍において、他職種の方々とお話しすることができて、嬉しかったです。
- いろいろな立場の方々の意見を聞くことができて、とても有意義な時間でした。また、オンラインで参加時間を選択できたのがよかったです。
- オンラインだと学生の私でも参加しやすかったです。とても緊張していましたが、司会の方が話しやすい雰囲気を作っていただいたため、話しやすかったです。
- オンラインでの情報交換は初めての参加でしたが、普段会えないような方とも交流出来て良かったです。
- オンラインでも情報交換が出来て、びっくりでした。コロナ禍の中でも、勉強させて頂きありがとうございました。
- オンラインということもあって気軽に話せた気がする。
- オンラインは初めてでしたが、もっと話したかったです。
- オンライン研修ははじめてだったので、戸惑うこともありましたが時間の隙間でできるため進めやすかったです。

- タブレットの操作が苦手の私がオンラインでセッションする事に大変緊張しましたが、医療福祉関係者の日常のお話を聞けてとても有意義な時間を過ごせました。
- 慣れないオンラインでのやりとりでしたが、たまたま久しぶりに会う方もいて、最終的には楽しめたかなと思います。
- 意外に初めての方とも話しやすさがあり、慣れてきたらいいツールだなと感じました。
- 私は Zoom を使うことが初めてだったので、セッションがどのようになるのか少し緊張してあまり話すことが出来なかった。私が参加した第３回目は人数が少なかったのでそれぞれ話す時間がちょうど良かったと思う。
- コロナの影響もあり、対面でのやりとりができなくても、このようにオンラインで行うことで繋がることができ、今後必要だなと思いました。
- 複数人でオンラインであるため、進め方が難しいと思ったが、司会進行の方が円滑に進めてくださりあの時間の中では情報も多く無駄がなかった。
- 自宅で参加できたことが参加しやすかった。配布していただいた資料も大変みやすかった。
- 初めてオンラインでセッションしたので緊張しましたが、稲生会のスタッフの方々が話しやすい雰囲気を作ってくださったので安心しました。ありがとうございました。
- 初めてで、話が軌道に乗るまでに時間がかかった。同じ目的をもって集まっている方と話すことが出来たのはよかった。顔が見られたのもよかった。

2. 多職種混合のグループセッションについて

- とても良かったです。お仕事中と言う事もあり、平日はやはり参加が厳しいのかなと少し思いましたが、当法人の職員はとても楽しく参加できたようです。本当にバタバタした中の参加でしたが対応して下さりありがとうございました。このように、他の職種の人たちと関わる機会はとても素晴らしいと思っています。
- どのような方々が研修を受けていたのかを知ることができたこと、それぞれのお立場の方の悩みなどを聞くことができて良かったです。
- まず、参加者の多さに驚いたと同時に、さまざまな職種の方が医療的ケアに関心があるのだと感じた。また、情報交換セッションの中でお互いの業務や困りごとを共有することができ、他職種同士こその視点の違いを感じることができたので、とても勉強になった。
- 緊張して参加しましたが、少人数でざっくばらんに話すことができ、良かったです。なかなか機会のない遠方の方ともお話することができ、貴重な時間でした。
- 色々な職種の方々と交流することができ、ネットワークの幅が広がり良かったです。
- 他の施設、他の職種の方、外国で暮らされているご家族のお話を聞けたのは本当によい機会でした。
- 他の方の意見はたとえ予想通りでも、各職種の考えとしてやニュアンスが心に残りま

した。

- 他施設、他職種でのグループを設定してくださったので、普段、直接的に関わることの少ない職種の方と意見を交換できたのがとても有意義でした。東京から参加されていた方もおり、支援の地域差を知る事もできて非常に有意義でした。
- 他職種、他職場の方からのお話を聞くことができ、大変参考になりました。
- ６人くらいのグループで、２回、別グループで話ができ、色々と聞けたので良かったです。稲生会の方が司会をしてくださり、進行もスムーズで参加しやすかったです。
- 短い時間でしたが、普段の生活では決して関わることのできない方のお話が聞けて、楽しかったです。
- 様々な業種の現状と取り組みを直接伺うことができる機会は、自身の取り組みのモチベーションをあげることになり良かった。顔の見えるつながりができることもいい点だった。
- 様々な職種の方々との情報交換出来る機会が少いので、とても有意義な時間を過ごす事が出来、大変有り難く思っております。
- 今後も色々な方々からのお話をお聞ききしたいと思いました。参加させて頂き本当にありがどうございました。
- 様々な職種の方が参加されていて交流ができたと思った。また、医療的ケアを受け入れている方で同じ悩みや問題に関して共有することができて良かったと思った。
- 最初は緊張しましたが、みなさんのお話しを聞いてとても勉強になりました。
- 浅い知識と理想でしか私は話すことができないので、とても良い学びの場を提供して頂けたなと感じました。実際に現場で支援を行っている方々の考えやディスカッションを聞くことで、介護、保育、医療等の様々な分野での医療的ケア児支援の印象を知ることができ、各分野での医療的ケア児支援がこのディスカッションを期に促進されればと感じました。
- 参加されている方が、北大看護師さんだったりで医療的ケア児へ関わった事のない自分が参加して大丈夫かと感じました。北大看護師さんですら学ぶ研修に自分が参加して良いのか。

3. 継続的な開催の希望

- 医療的ケア児について、他職種の方々の意見等を聞くことができ、とても参考になりました。また、普段接することの少ない多職種と横のつながりを広げていけるとよいと思いました。このような研修だけではなく、多職種が一緒に医療的ケア児のケア等について話し合う場があるとよいと感じました。(在宅移行の段階で初めて情報交換するのではなく、普段からわからないことや悩んでいることを相談できるような)
- 緊張しましたが、とても楽しく勉強になりました。時間が足りないと感じるほどです。また機会があれば情報交換に参加したいです。

- 一度だけのオンラインでのセッションだと他の参加者の方と繋がりを持つことが難しいので、ぜひ何度も繋がりを持てる機会を作っていただけたらと思います。
- とてもよい時間だったので、養成研修を終了した方向けに、情報セッションのような形で定期的に開催してくださると嬉しいです（ある意味で特典みたいにもなると思います。）回を重ねるごとに「いつの受講生ですか？」というような会話も生まれたり、そこでコミュニティができていくと輪が広がっていいなあと思います。不安の交流や相談事をしあったり、他の事業所の様子を気軽に聞いたりできるとたくさんの学びがあると思います。

4. オンライン接続時のトラブル等について

- Zoom に繋げられず、悪戦苦闘していましたが事務局のサポートのお陰で無事繋がることが出来ました。また、オンラインセッションではグループワークのファシリテーターのお陰で緊張せずに楽しく参加出来ました。時間があっという間でした。
- 情報交換セッションはオンラインで実施されたせいか声が聞こえにくい、止まってしまうなどのトラブルがあって話出来なかったのか残念でした。１回目のグループはほぼその対処で終わってしまいました。また、人数の割に時間が短く、自己紹介だけで終わってしまった印象が強く、情報交換までには至れなかったなぁと思いました。ただ、オンラインでなければ参加出来なかった会でもあったので、それは本当にありがたく、このような機会をいただけて感謝しています。また、Zoom での参加で使用方法に不安がありましたが、前日にプレ開催していただけて、安心して受講することができ、助かりました。
- 私自身は緊張し過ぎた挙句 Zoom は固まるし、しどろもどろで申し訳なかったのですが、運営の方の素晴らしい司会進行のおかげで事なきを得ました。
- 上手く使えませんでしたがお話しが聞けてよかったです。
- 私が参加したグループは楡の会の方が多かったのですが、同室で複数人が情報セッションに参加されていたようで、最初は別の方の声が入り聞きづらい場面もありました（途中から進行役の鈴木先生からお声が気ありミュートにして頂きました）。難しいですが、可能な限り別室で、別の端末で参加頂けるとよいかなあと思いました。

5. グループセッションの時間配分について

- 様々な職種の方と話し合えたのでとても良かったです。時間が短く、もっともっと話したかったです。自分自身の問題解決までには至りませんでした。とても楽しく受講できました。
- 普段の業務で会うことのない外来を中心としているスタッフの皆さんや、学校の先生もグループにいらっしゃったので、とても刺激のある時間だったと思います。ただ、これも私の準備不足ですが、もう既に一緒のグループの方のお名前が分かりません。名刺

交換はできませんが、名刺を画面に映してもらい写真を取り合う時間があったら、記憶が長続きしていたなと思いました。

- 時間が短く感じました。でも、外国に居住の方のお話しも聞けたのは、リモートの良いところですね。良い点もありますが、時間とテーマが限られてしまうことが残念ですね。対面だと、例えば休憩時間などに、情報交換があったり、仕事上のつながりができる＋アルファがあるので。
- 時間に限りがあり、考えを頭の中でまとめたりする余裕がなく、又、初対面の方とのセッションという事で、日頃経験の無い事だったので、とても緊張してしまった。しかし、色々な職種の方から様々な意見を聞く事が出来た事はとても貴重な機会となった。
- ディスカッションの時間がほぼ自己紹介+で終わってしまったので、もう一回りするくらいの時間があったらよかった。
- ディスカッションの時間をもう少し長くとってもよかったのではないかと思った。案外時間がなくてあまり深い話まではできずに終わってしまったり、そもそも通信トラブルなどでほとんど話ができなかったりしたため。
- もっと話す時間が欲しかった。

6. オンラインセッション全体の内容について

- グループディスカッションは特に学びにならず、でした。司会者が成人対応の方だったせいか、メンバーの家族の話で終わってしまい残念でした。
- 同じグループの方がこれから医療的ケア児に関わる方が多く、あまり参考にならなかった。
- 今回の講義に対しての意見交換ももっとできたらよかったです。
- セッションの内容、また、セッションの中で参加者がどのような話をするのか詳細の案内があると、心構えができました。
- セッション参加時はまだ半分くらいしか講義を聴けていなかったため、講義を全部受けていたら他職種の方にも色々と情報交換できたのではないかと思いました。
- 講義を見るのを早い段階で終えていたので、情報セッションに参加しながら慌てて思い返しながら感想の交流をしていました。私の準備不足が原因ですが、前日には話す内容が分かっていたり、講義を受講する前に分かっていると受講期間に気づいたことなどをメモしておくこともできるので、限られた時間でより実りある交流ができるようにも思いました。
- 私は学生なので、支援やネットワークの現状についてはあまりピンと来ていませんでした。

XI　オンラインでの講義受講（YouTube 限定公開や URL の案内、テキスト配信等を含

む）について

1. 講義時間について

- 講義時間が 30 分程度であったこと、仕事の合間などに自由に見られたので、受けやすかったです。
- 仕事や家のことの合間で、時間を取ることが難しいかと思いましたが、1 つの講義が 30 分未満で思いの外、隙間時間に YouTube を見ることができてよかったです。見やすく、自分の時間に合わせて進められてよかった。
- 仕事・家事・育児に追われた生活でまとまった時間をとることが難しいため、少しずつ合間時間などに見進めることができて良かったです。
- これまでの他の動画研修は動画一本で 90 分だったので、ちょうどいい長さで見やすかったです。
- オンラインでも十分学ぶことができた。全動画を見るのに時間は要したが、1 コマの時間は調度よく集中力を切らさず見ることができた。多岐に渡った内容で幅広い知識を得ることができた。
- 一コマ 30 分前後でしたので、時間ある時に見ることができました。特に不便は感じませんでした。

2. オンラインによる講義視聴について

- 自分の受けられる時間帯に何度も見返すことができて、コロナが落ち着いても、このような形の研修だと、より多く参加できます。
- 自分のペースに合わせて、YouTube で、限定公開で見ることが出来て助かりました。仕事終わって、家に着いて家事育児の合間でも受講できて、良かったです。
- コロナウイルスの影響でオンライン受講となってしまい皆様と直接ディスカッションできなかったことが悔やまれます。しかし、私情ですが国家試験を控えており、大学に通うことが多くあったため、移動時間や隙間時間に講義を受けることができて良かったと感じております。
- 今回の研修のように、時間の要する講義は参集での開催では参加ができない場合が多いが、オンラインで各自のタイミングで見ることができると、負担がなくより多くの方が参加することができると感じた。
- 自分で時間を作って講義を受けることが出来たため大変良いと思います。
- 自分の空き時間に受けれたので、大変助かりました！
- オンラインで十分だと思う。講義項目、内容、時間が多く、集中力にかけるので見直しがあるとよい。
- 受講は、時間を自由に確保できるので良かったです。また、移動時間がないのが良かったです。内容も、何度も確認できるので。
- 自分の都合のいい時間に聴講できて良かったです。

- 自分のペースで勉強でき、分からなかったところは何度も見直すことができて、仕事などしていても受講しやすかったです。
- 子供を産んでからは保育園からの呼び出しや子供の体調不良があったら困るので中々研修を受けることが出来ないでいましたが、自分のタイミングで講義が受けられてとても良かったです。ありがとうございました。とてもよい経験となりました。
- パソコンさえあればどこでも受講できるので大変助かりました。
- この仕組みはとても良かった。繰り返しみたり、少し戻ったりと自分の理解を深めるためにうまく動画を活用できた。また、テキストも動画としっかりリンクしていたので、受講後も手元で何度も開き、確認することが多い。
- 自分の都合に合わせて講義が聞けたのはとてもよかったです。ありがとうございました。
- オンラインであったため、仕事や家事を調整しながら自宅で受講できるのはとても助かりました。今後もっとオンライン受講が増えてほしいと願います。
- 自分の空いている時間に視聴でき、何度も聞き直すことができてよかったと思った。
- オンラインで受講できて良かった。また来年もオンラインで開催してほしい。
- オンラインはとても助かった。家庭のことをやりながらや通勤時間中と合間でできたためよかった。でも、その場で質疑応答ができないのは難点かと思った。
- 一つ一つ QR コードを見て進めていくのは大変でしたが、途中からなれて来ました。オンラインこそ何時でも見れると言うメリットが有ったと思います。
- オンラインでのやり取りが苦手でしたが、勉強する機会になりました。
- パソコンやタブレットの操作が苦手なため、わからないことが多々あり、質問するのも抵抗がありましたが、何事も始めて理解できることが多々あるため、苦手意識を押し込めて、あたって砕けた方が、何もしないよりはよいと思います。
- 初めての経験で、こうしたものに不慣れな自分では本当に受講出来るのか？と不安でしたが、思った以上にスムーズに行えました。
- 当初パソコンから参加していたが途中から「危険なサイト」の警告が出て、視聴・回答出来なくなりスマートフォンだと回答出来た為切り替えた。
- パソコン操作が詳しく無いので困ってしまった。

3. テキストについて

- テキストは見やすく、YouTube にも QR コードやメールで案内があったのでアクセスしやすかったです。
- テキストもあり、大変分かりやすい講義でした。
- モニターを見ながらテキストを見るのに、横開きのテキストがとてもよかったです。物品の写真はぜひカラーで見たかったです。
- コロナ禍ということだけではなく、オンラインで自分の学びたい時間、繰り返し学ぶ機

会を作っていただき大変感謝しております。受講日程も長く設定されており、時間的に余裕をもって受講することができました。また、テキストもしっかりとしており、本当に無料でよかったのかと感じました。

- テキストは分割されたデータで、印刷するのはすごく便利でした。
- 些細なことですが、テキスト冊子の紙質がよく、ペンでも鉛筆でも書き込めて裏写りしなかったのが地味に助かりました。
- 資料は、とても見やすかったです。
- テキスト印刷が上手くできませんでした。資料が多すぎて、全ての印刷は無理でしたので、必要なものだけにしました。
- 保存を考えると一括で PDF になっているものも欲しかったと思いました。
- 教科書にページ番号があるとさらによかったです。また、文字が小さいところもあったので、ポイント数を統一しているほうが見やすかったと思います。
- オンラインでの講義は、自分の時間で参加でき、聞いていて分かりにくい所は何度も戻って聞き直すこともできてとても良いと思いました。期間も丁度良いように思いました。テキストの字はもう少し大きい方がよかったです。
- オンラインでの講義視聴は、繰り返し見たり、自分のタイミングで見られたのでよかったです。テキストは膨大な枚数の印刷が少し大変でした。
- 綺麗でみやすいテキストに感謝しています。動画は繰り返し視聴しましたが、期間限定は残念でした。とても学びの深い動画ばかりだったとおもいます。

4. YouTube による講義動画の限定配信について

- YouTube での限定公開のやり方はとてもよかったです。YouTube は日ごろから使っているツールなので見るときも特に困らずみることができました。
- コロナもあり、今回オンラインでよかったと思います。また、好きな時に動画を見たり、もう一度聴きたいところも聞くことができたのでよかったです。
- 何度も繰り返せるのは本当によかった。
- 見逃したところも…戻ってみられるのは本当にありがたい。
- 動画の講義だと、聞き逃したところを繰り返したり、気になる点は一時停止してテキストに書き込みできたり、利点が多かったです。
- 一瞬聴き逃してしまっても聞き直す事が出来るのが良かった。
- ＵＲＬを観たいもと違うものをスキャンしてしまう事が何度かありましたが、YouTube では、何度も見返すことが出来たので、とても良かったです。
- どの講義も大変勉強になりました。研修会の案内も丁寧で親切で何も困らなかったです。YouTube なので、聞き逃してしまったり、もう一度聴きたい時など、気兼ねなく何回も再生できてよかったです。
- 自分の都合のいい時間で自分のペースで動画を見れるので良かった。

- YouTube 配信は時間が自由で大変助かりました。何度も見返せたところもよかった。
- YouTube での講義は自分の都合の良い時間に受ける事ができ、又もう一度内容を確認したい時に繰り返し見る事が出来るメリットもあり、私にはとても良かった。様々なご案内はどれもタイミング・内容とも的確で分かりやすかった。
- YouTube で公開されているので好きな時にみることができた。
- ビデオの中に他と比べると少しだけ聞き取りづらい回がありました。
- できれば、音声の質がもう少し改善されて、聞き取りやすいようになればと思います。講義によっては、かなり音量をあげても、聞き取りにくいところもありましたので…。

5. その他

- 丁寧な解説が勉強になりました。
- とてもわかりやすい案内で、すんなりと受講できました。
- メールがとても丁寧でわかりやすく講義の受講に関して迷うことがなく良かったです。自分のタイミングで受講することができ良かったです。また、何度も振り返り確認できたことも良かったです。
- オリエンテーション含む全 25 講義はなかなか長い道のりでした・・・。受講期間がもう少し長いと嬉しかったです。
- 移動がない分、負担は減るメリットと、反対にスケジュールがしっかりできない事にも気が付きました。お仕事や生活の中での合間で時間を自分で作る難しさに、四苦八苦いたしました。これも初めての体験でとても良い経験となり、全て視聴する事が出来なかったという後悔も公開もまた、今後の仕事に生かせる事が出来たらと思っています。
- 適切であったと思います。自宅でゆっくり見る事ができたが興味のないものはみるのも後回しになってしまい、最後までみることがなかった。
- 申し込みさせていただきましたが、視聴時間を作れず受講できませんでした。自分の不徳の致す限りですが、もう少し期間が長く、もしくは参加者は年間通して見られるなどのご対応をいただければ、振り返りも含めて深めることができると思いました。

XII オンラインでの小テスト（Google フォームの利用状況を含む）について

1. 問題内容について

- 特に問題ありませんでした。ちょっとした引っ掛けに引っかかりました。
- ちょっとひっかけ問題に感じる事もありましたが、すぐに答えもわかり、面白かったです。
- 結構難しかったと思いました。
- 講義を聞いてないとできないテストで、振り返りにはよかったと思います。
- 小テストで講義を振り返る事で、内容をより深く理解する事が出来た様に思う。講義に

よっては設問が難しく悩む事もあった。

- 私にとってとても難しい問題もあり、毎回悩みながらテストを受けました。テスト問題を見ながら動画を見たかったので、全テストを印刷し、書き込みながら受講しました。
- 問４を記載するのがちょっと苦手で大変でした。
- 小テストの講義で印象に残ったことを書くところが何を書けばよいか迷った。
- すごく難しいこともなくできたので良かったです。
- 詳しく覚えていませんが、難しい問題が数問ありました。他はサクサクできて確認になりました。

2. Google フォームを活用した点について

- タブレットで動画を見ながらスマホで答えました。とてもやりやすかったです。アンドロイドを使用しているので Google も使いやすかったです。
- パソコンで講義を聞きながらスマートフォンで問題に回答したのですが、時々、スマホ対応にならず、適切な番号を選んだのにずれて、失点してしまった問題がいくつかあった。スマホにも対応できるといいと思う。
- 毎回アドレス入力が大変だった。
- 一つのセッションが終了して、小テストに取り掛かる前に次のセッションが開始されてしまうので YouTube の所に貼り付けてあると少々不便な気がしました。
- 回答への返信メールが届かなかったことが多少困りました。
- 動画を複数回に分けて閲覧していることがありました。小テストの回答返信メールでどこまで受講していたか確認していたため、返信メールが来ないと、小テストをしっかり送っていたかを忘れてしまうことがあったため（私の管理不足ですが）すべて返信メールが届くように設定して頂けると大変助かります。
- 前半講義の小テストですが、解答送信後に問題についての解説がされているのに気づかず、いただいたメールが探せなくなってしまいました。もし可能でしたら再度小テストの解説一覧をいただけたら…と思います。
- 他にも手段があって把握してないだけかもしれませんが、小テストを受験したか書類のチェックだけでの確認だと不安でした。
- 回答してもメールが来ないことがあり、自分が本当に回答できていたのか不安になり、２回送信した講義がいくつかありました。こちらの不手際の可能性が高いと思いますが、全部回答を完了出来たら、お知らせが欲しかったです。
- 小テストの送信しっかりされているかどうかわからず、もしかすると小テストはすべて行いましたが、操作間違いや、勘違いにより送信がされてないこともあったのではと思います。不慣れで申し訳ありません。
- google フォームからメールに届かないことがあったが、使用感としては全く問題なかった。

- 機種の問題なのか、QR コードをなかなか読み取ることができず苦戦しました。
- パーフェクト目指していたのに、パソコン打ち間違いでミスだとすごいがっかり感がありました。
- スクロールしているうちに自分がチェックした部分からいつの間にかズレてしまい気付かず送信→結果間違いになりびっくりする事が何回かあり要注意と感じた。
- 何度か違うものをスキャンしてしまった以外は筆記よりスムーズに行えたと思います。
- 小テスト後の風景画像の選択問題？あれはなんの意味があるのですか？
- コメントを入れて送信をしようとしたら、突然『煙突の画像を全て選んでください』と出て、何か分からなかったので、最初は混乱した。

3. 小テスト全体について

- 復習の効果があったように思う。
- 小テストで、再確認出来て学びになりました。
- 小テストがあることで理解度を知ることができた。
- 小テストがあったので理解できていないところが明確になり復習できました。
- 小テストがあり、講義内容の振り返りができ、間違っていた所も見直せたので良かった。です。また、メールで回答した講義(受講した講義)を確認できたことも良かったです。
- 小テストは受講の区切りとして有効だった。
- テストを受けた後にすぐに確認できたので良かった。
- テストがあると、講義も集中して聞くことができるので、よかった。
- テストも受けやすく、おさらいもできました。
- テストで振り返ることができ、よかったです。
- テストがあることで、講義を見ることにより集中しました。
- 満点を取りたかった！いいシステムだと思います。
- 緊張感を持って取り組めました。
- 問題なく利用することができました。
- 質問数が少なく、解説がわかりやすかったので間違えを訂正しやすく、良かったです。
- 重要な点について理解度を確認するという意味ではよかったと思います。
- 講義ごとに受けようか、全ての講義が終わってから受けようか迷い、結局講義ごとの受験。 見直しにテストという感じで緊張感もありよかったのかなと思います。
- 選択式と感想の組み合わせで、回答しやすかったです。ここを覚えておいて欲しいという意図も感じられましたし、復習にもなり、自分にはちょうどよいと感じました。
- 対面での研修より、質問できたと思います。
- 知識の再確認となりあってよかった。
- 特に不便さを感じる事なく取り組めました。
- 興味のあるものはテストまで受けたが、ないものは受けていない。

- 実際、子育てしながらの視聴と言う事もあり、生活にはハプニングが付きものなんだと改めて感じました。実際集中する事が中々できない自分に気が付きました。そして久しぶりの小テストに緊張と共にワクワクしました。間違えるはずのない問題を間違えて笑ってしまったり、楽しかったです。
- 重要なポイントについて、振り返りながら確認できるので良いと思います。
- 時間に余裕をもち、考えることができてよかった。また、自分が理解するまで学習してから回答することができてよかった。

XIII その他研修会全体を通じてお気づきになったこと

1. 全体についての感想

- こんなに多くの職種の方々のお話を聞く機会なんて、そうさあるものでは無いので、本当に感謝です。
- 概ね良かったと思います。講義の内容も大変参考になりました。
- オンデマンド形式だったからこそ参加できた研修会でした。大変でしたが実りの多い研修で受けて良かったと思っています。学びを実践に生かせるよう頑張ります。
- 貴重な機会をありがとうございます。
- 知らない事忘れていた事たくさんあり、勉強になりました。
- 専門職や当事者のご家族、当事者と様々なお立場の方からお話が聞けてとても参考になりました。
- 充実した内容の研修で、YouTube の配信を見直すことができたことが良かったです。
- 今は、なかなか他の職場の方とお会いする機会がないので、情報共有の場があり、お話を伺えたことが良かったです。もっとお話をうかがいたいと思った方もいたので、直接繋がりを持てる方法があればと思いました。
- とても分かりやすくて良かったと思います。
- 過去に受講を考えましたが、時間が取れなくて、諦めていました。今回、この様な形で開催していただいて、感謝申し上げます。
- お忙しい中このような機会を頂きありがとうございます。知らなかった部分が多々あり最新の情報が取り入れられました。ありがとうございました。
- この研修を受けたことで、今回の学びを生かし、医療的ケア児に携わる部署で働きたいと改めて思いました。
- 動画形式は、聞き逃しなく講義を受けられるのでとてもよかったです。今回は資料のみいただく形になったが、次回も参加できれば必ず受講したいと思った。
- 動画の閲覧可能期間は最適だったと思う。内容のボリュームに対して、長めに設定されているため余力を持って受講することができた。事務局からいただく連絡もとてもスムーズで大変受講しやすかった。
- 研修の案内等もこまめに連絡をくださり、とても助かりました。ありがとうございまし

た。

- 感謝しかありません、ありがとうございました。
- すごく中身のある充実した研修でした。
- 多職種の方や当事者の方など、あれほど多くの方に深く講義していただから機会は中々ないと思います。このような機会をいただき、感謝しています。
- 医療的ケアが必要な人の現状、何の支援を望んでいるのかについて知ることができた。介護士が医療的ケアを実践する場も増えてきたが実践するにあたりその子のことについて理解し、利用者が何を求めているのかをくみとり、利用者に寄り添うために多職種と連携を図ることが重要であることについて理解できた。
- 講義内容に関してはやはり成人期の内容が少ないと感じました。

2. 今後の希望

- もう一度完璧に視聴したいと心から願っています。
- 出来れば研修期間後も講義が見られると嬉しいです。
- スペイン風邪の終息まで 3 年を要したと聞いています。そのためコロナの終息はまだ続くのではないでしょうか？そのため、不定期でもよいのでネットでの研修やセッションの開催を企画していただきたくお願いします。
- 主催された方々が、これに要したお時間を思うとどんな熱量かとただただ感謝しかありません。ただ折角作成された映像なので、もっと広く一般的にも見る機会があればと感じました。個人情報など複雑な問題はあると思いますが。
- 講義・資料ととてもわかりやすく、また身近な研修だったと思います。もっと、こんな研修受けたいです。ありがとうございました。

3. 今後の提案

- 今回は幅広く浅くという印象でした。テーマを分けて深く掘り下げる研修があれば参加します。あと、この支援者の修了証をもつことで、何か札幌市で活動できる資格となるのでしょうか。職場の上司と参加したのですが、ちょっと気になりました。
- この内容と量を座学でやるのは無理があるが、オンラインだと隙間時間にできてよかった。今後も積極的にオンラインを活用してほしい。あまり量が多いと、何を学ぶのか主訴がはっきりしないので、テーマを決めるなどコンパクトな方がよいと思う。1セッション２０分、基礎知識５～６項目、選択３～５項目、計１０項目程度でよいかと思う。
- 研修会の開始直後にオンラインミーティングがあると、どのような方が参加されているのか知れて良かったと思いました。例えば、全体での開会式のようなものがあれば、同志というか、同じ研修に取り組む仲間として、連絡を取り合うこともできたのかなと思いました。
- 連携会議につながっていければと思います。

4.　その他

- ゆっくりお話しして下さっていたのですが、聞き取りやすいかというと少し違ったような気が致します。
- 講義の内容はもちろん、集中出来る時間そして会話のスピードもとても聞きやすかったです。

XIV 医療的ケア児者の支援について、今後、必要なこと

1.　多職種/多機関連携

- 医療的ケアを行うのに多職種との連携は欠かせないことだと思うので連携を図り、利用者に寄り添った支援を行うことが大事だと思った。また、学校に医療的ケア児がいけるように体制を整えていくことがもっと必要だと思った。
- 垣根のない他職種、他機関の連携だと思います。
- 気兼ねなく、医療と教育と行政が行き来できることが必要と思いました。何の制度にもならずに、支援がうけられず苦労されている子どもたちや、ご家族がいます。教育の場で把握してからどのようにつながっていくと良いのか悩ましいです。架け橋のところがもっと強化されていくと良いと思いますし、自分も学んでいきたいです。
- 昨今、医療と福祉と教育など各々の役割がぼんやりしてきたというか、薄れているというか、あまりにもハッキリとしないことが増えてきているように思います。1 人を取り巻く支援者がどのように繋がって、それぞれどのような役割を持って関わって行くかを考える機会が必要と感じます。
- 子供を中心に考え、必要な支援を関わる方々で共有し、共に生活をしていくことかと思います。
- 私は NICU·GCU 勤務なので、病院から在宅（もしくは施設）へ移行する大変さ、大人でいう post ICU 等の特化型病院など中間拠点が無い札幌市の小児医療の現実、親御さんの負担の大きさなどまだまだ理想に遠いなと実感しています。在宅医療と病院の連携がもっと密になればなぁと思います。そして生涯医療クリニックさっぽろの様な病院の数が増えることが必要と思います。
- 他機関との連携や地域全体における取り組み（質の向上と受け皿の拡大など）が必要だと思います。
- ご家庭・学校・医療・福祉関係機関が連携しながら、みんなでご本人の思いに寄り添っていくことだと思います。チームを作っていける相談員を目指しています。いつも稲生会の方々にはご協力いただき、感謝でいっぱいです。
- やはり、横のつながりでしょうか？誰にどこに連絡していいのか？これって情報共有した方がいいかな？など未だに迷うことがあります。また、医療的ケア児には、皆さん

にケアマネがついていなく。お母さんなのか、相談員さんなのかわからない部分もあります。

2. 支援の選択肢の充実

- 医療的ケア児のライフステージが変わる時の支援がもっと柔軟に、選択肢が増えるようになれば良いのではないかと感じました。成人に至るまでに、多くの段階を踏まなければならないため、その分環境が変わってくると思います。今回講義を受講して、保育施設の職員が医療的ケアを学んだり、学校への進学の際の看護師の配置要件であったり児童が入園・就学を行う時に対策を考えることがまだまだ多いのではないかなと感じました。（すでに体制が整っていたら申し訳ありません）生活環境が変わる時に、本人も家族も安心･安全に通える体制を整えるために、今回のような医療的ケア児支援者研修や、医療的ケア実施研修を様々な分野の専門職または学生にも広めていくことが必要なのではないかと感じました。
- 障がいに関係なく、1 つの個性と考えられ健常児と同じようにもっと当たり前に保護者から離れて学校に通えたり保育園、幼稚園に通える支援が出来ればと思います。
- 医療的ケア児者を支援できる事業所が増える。サービスが充実し、ライフステージに合わせ利用でき、色々な選択肢ができるくらいになったらいいなと思いました。
- まずは支援者と年齢ごとに必要な支援が受けられる体制の構築だと思います。どこへ行くのにも何をするのにも、健常者と同じように様々な経験を積める様、支援の充実がされることを願います。
- 医療児ケアのお子さんには直接かかわる経験はありませんが病室から外へ（集団）子ども達の体験の場を広げてはどうでしょうか。（病状にもよりますが）看護師さんが折り紙や小さな制作遊びをしている場面を一度見学したことがあります。私たちも同じですが、看護師さんほどの知識はありませんが医療分野の学びも必須です。それだけに、保育の専門家と看護の専門家が手を携えて行くことが望ましいと考えます。医療児ケアのお子さんにとっても育ちに良い刺激になることでしょう。そう願いたいと考えております。
- 医療的ケアの子どもがいても家族を増やしていけるような支援。母親が就労を継続していけるような支援。
- 地域の中で健常者と同じようにあたりまえの保育や教育を受けられる環境と医療的ケア児を育てる保護者が働きやすい社会の仕組みと理解が必要だと思います。

3. 普及啓発

- 医療的ケア児の存在を、いろいろな人に知ってもらうことだと思います。
- 医療的ケア児をもっと沢山の人に知ってもらい、受け入れやすい社会作りだと思います。

- 医療的ケア児者の存在をもっと色々な人に知ってもらい、様々な人との連携が大切だと改めて思いました。
- 興味を持つこと。
- 受け入れる体制を積極的に整備していくこと、差別や偏見がないように世の中の人にももっと知ってもらいたい。
- 周りの理解と医療ケア児についての周知だと思います。
- 自分の場合、まずは理解者を増やすことです。同じ思いをもった仲間と取り組みたいです。医ケア児に対する苦手感が必要なケアに繋がらないのだと思ってます。自分が周囲に広めていく役割があると感じました。その中でも協力者と共に地域で支えていきたいです。
- 早い段階からの本人と周辺社会の教育。存在を知ってもらい、どんな支援が必要か一緒に考え、共に生きていく同世代として理解を深めていく。
- もっといろいろな人が医療的ケア児と関わって理解を深めていくことが必要だと思います。また、それによって、地域による支援の格差もなくなっていくと思います。

4. 医療職の配置

- 看護師さんの配置や派遣。
- 看護師は医療的ケア児が退院した後の様子を知る機会は外来受診で会うとか保健師さんから家庭訪問に行っての報告書を送ってもらってそれを見るとか少ないです。退院後の家での生活の様子や少し大きくなって保育園とかショートステイなどを利用するようになったら地域での生活している所を見に行ける機会があったらいいと思う。
- 保育施設に従事する看護師等の確保、それを育てるような支援。
- 学校に配置される看護師が、PT、OT、ST など他の職種でも可能になっていくようなしくみ作り。
- 医療のフォローが無ければ不安で受け入れできない事業所が多いと思います。特に、体調を崩した時の早い介入が介護職の願いです。

5. 研修の機会

- 基礎教育でも習っているが、実際に関わるようになってからの学習が身に付きやすいと感じた。このような機会や場が多くなり、広く周知することが必要だと思った。
- 今回の研修のように、組織を越えて情報交換ができることなどが、医療的ケア児者を取り巻く環境の課題を全体で変えていくきっかけにつながるのではないかと、研修を受けて感じました。
- 私はまだまだ知識・経験不足ですので、このご時世なので難しいのですが、やはり色々な方々と色々な方面からの話を聞く事、そしてまずは様々なことや、問題点など知る事が大事だなと思いました。

- 定期的な研修は、必要だと考える。医療的ケア児を知らない人にも知ってもらう必要があると考える。
- 定期的に関係部門が、連携会議などで情報交換すること。
- 定期的に講義受講等で自分がやっている事が本当に正しいのかを随時確かめながら人数を増やしていく。支援の輪を広げていく。
- 必要な人に必要な情報が届く仕組み。医療関係では福祉や教育の仕組みがわからず、教育の側からは医療がどのように取り組んでいるのか知らないのが現状だと思った。その穴を埋めるだけでも支援はもっと広がると感じた。今回の規模の講習はその穴を埋めるためにとても有効だと思った。オンラインで、自由に受講できる形だったからこそ現場に関わる女性が多く参加できた部分もあると感じた。今年度よりも前の講習はあったことを知らず、テーマをみると受講したかった内容ばかりだった。何年かのサイクルで、福祉、教育、医療・・・などとテーマが繰り返し、どこから入っても一周できる様な支援者講習が根付くと知識もアップデートできると感じる。が、誰がどの様に担うのか、団体として年会費を徴収するのか、など体制の整備が大変困難ですね。

6. 人材育成/待遇改善

- 医療的ケアの必要な方の数に対して支援者の数は少ないように思う。また、福祉従事者の中で、医療に関する知識を持った人も少ないと感じているため、より多くの人に関心を持ってもらう必要があると感じる。
- 稲生会さんではグリーフケアや兄弟児等の家族支援に関しても積極的に行われているようでしたが、自分たちの事業所や法人では財源的に難しいと思いました。給与等の処遇面での不足感も強く、介護士や看護師が不足しており、常にマンパワー不足にあり、支援したくても出来ない、内容をよくしたくても出来ない現状もあり、障害者を医療だけでなく福祉でも支える為には財源・支援者数の確保、優秀な人材を集めるには処遇の改善や環境面での改善が必要と思いました。
- 支援者を増やしていくこと、興味を持ってもらえるように情報を発信していくこと、勉強会など支援者を継続的に支援していくこと。
- 支援者間の情報交換と、支援の内容を広く知ってもらうことは大切だと思います。特に医療的ケア児の分野は求人も少なく、その分野に携わりたいと思っていても機会も少ないように感じます。この講習を通して更にたくさんのことを知りたいと感じました。
- 専従者の増強と一般の方（医療的ケア児に興味が特にない方）や子供への認識・体験の機会の確保による、相互理解への一段階。

7. 相談窓口/コーディネーター

- 在宅生活を考え始めた時、在宅生活のイメージ作りから、在宅で受けるサービスの調整、家族支援に至るまで、全てを一か所でサポートしてくれる存在があればとても心強い

と思うので、その様なサービスの充実が必要だと思われる（もう既に存在していたらすみません）。

- 全ての行政の支援を、上手に利用出来るようにすることではないでしょうか？全ての医療的ケア児達が、受けれる支援を全て受けてないのではないかと思います。支援先が国、地方自治体、各省庁など多岐に渡り、調べようとすると大変だと感じるし、児の両親などにはそんな時間はないのでは？と思います。だからこそ、コーディネーターの数を増やすことが急務ではと感じました。
- 的外れかとも思うのですが…当事者ご家族がしなければならない手続きや準備を、少しでも減らしたり、窓口の一本化はできないものかと感じました。また、就学・就職にあたり、学校や職場では福祉サービスを受けられないことにも矛盾を感じました。
- 保護者の方たちとの情報共有が必要だと思います。医療的ケア児が使えるサービス、就学問題など、何も知ら無い保護者は少なく無いです。訪看さんが来てくれる週に一度の３時間だけが自分の時間と言うお母さんがいます。医療的ケア児がいても、お母さん達がもっと社会参加できる環境になって欲しいです。
- いろいろな病院にかかり、専門的な診察を受ける機会もあるが、いろいろな情報を得て、家族が十分理解できないこともあり、その場では質問もできず、悩んだままのこともある。主治医または主治医のいる医療機関が、他の利用先との情報共有や情報、利用内容の整理などが必要に思う。早期から相談支援事業所の利用など。家族、本人も含め、相談支援先ができることなどが整理され、出生後から切れ目ない見守りができる体制。
- 1 人の人間、一つの事業所が大きなことをできるとは思えませんが、地域の病院や福祉事業所に得意なことは何かしらありますので、点在する病院や福祉事業所を結ぶ仲介になるような人が増えるとよいと思います。
- よりそい、たらい回しにならないような支援など。

8. 当事者理解

- 少ない社会資源の中で対応している当事者の思いを、各関係機関ともっと地域で話し合えたらいいなと思います。理解しあえる仲間がいないとスタートできない事ばかりなので、ひたすら、この地域で信頼され頼りにされる社会資源となるよう努力しています。小さな地域の中だけではなく、本当に、他の地域の活動や取り組んでいることの情報収集をして、良いことはどんどん取り入れていく体制創りが必要かなと日々感じています。今回は札幌以外の地域が参加する事が出来るよう配慮していただき本当にありがとうございます。
- 利用者本人の希望なのか、家族の希望なのか。今はできなくても利用者のことを考えているのは同じなので、協力できる関係を作ることが必要。
- 家族のケアが長く続いていることで、成長後の自立、分離が難しい環境と思われる。家族の理解と成長に合わせた本人の変化を受け入れ、柔軟に対応できる理解が必要。その

ためには、似たような環境の家族との共有や相談などを支援者ではなく、ピアのような関係、グループ支援などの機会が有効にも思う。

- 学齢期から、本人や家族の将来像などを考えたり、イメージできる機会があるとよい

9. その他

- 厚生労働省からの障害福祉分野の令和３年度報酬改定での議題にもあるように、医療的ケア児の支援体制構築の必要性が認知されてきており、今後医療的ケア児の支援はより身近になりこうした知識と支援体制は重要だと感じます。
- 実態に即した法の整備が必要だと思いました。今のやり方は実態にあまり即しておらず、現場にそもそもの課題があるのにもかかわらず、法律だけが先行している印象があります。法律だけが先行し、報酬などの体制が不十分であると法律に準じたいが、その体制が整っていなくて法律のようにできないと現場の職員たちが板挟みになり、結果的に受け入れに繋がらないのではないかと思いました。医療的ケア児者について知識を深めていくことも大変重要ではあると同時に受け入れる現場にも十分な手当などが必要であることを布教していく必要があると思います。
- 人手がかかることがほとんど。また、コロナ過で他の利用者との関係、距離などにも支援者はより神経を使い、緊張が続く。安定的な体調管理も難しい方も多く、定期的な利用が難しいと、経営側としては知識の習得だけでは厳しいのではないか。
- Zoom でも話題に上がっていましたが、支援者が情報共有する為の電子カルテのようなアプリがあると便利だと思いました。現在はファイルに、各支援者それぞれが記入していくタイプが主流だと思いますが、電子ツールだと画像での記録が残しやすく、発作の様子や例えば皮膚病変なども確認しやすいと思います。
- "地域間の格差を減らす。ここの地域にはないから、近隣に頼ろう。ここの地域ではここまでやろう。などといった物理的な格差をある程度埋めるツールや支援者の技術は増えていて強みになってきていると感じます。しかし、『あの家族だけ特別に』『要望があったから仕方なく』と間接的な支援者(人材や財政的な調整をしている)からはそういった声が周りではまだまだ多く。意識的な格差が埋まってくることで、支援の広がりはまた違ってくるのかなと感じます。
- 法の整備。

XV 来年度も本研修会を受講するとしたら、特に取り上げてほしい（アップデートしてほしい）講義

1. 法制度/行政の動向

- 札幌市内の医療的ケア児に関わる福祉、行政、教育等の状況について。
- 医療的ケア児への支援の方向性など、国の動向を確認したい。

- 更新される制度による実践内容と更なる問題点の追求。
- 新しく改正された制度を一緒に読み合わせじゃないけど、皆さんで共有出来たらいいかなと。あとは、在宅で暮らす利用者さんの声、保護者さんの声、はたまた医療的ケア児のご兄弟の声なども聞いてみたいです。
- 法律や制度については毎年変わるところがあると思いますので、また聴きたいです。口腔ケアの具体例も知りたいです。来年度もよろしくお願いします。ありがとうございました。

2. 学校卒業後の生活

- 医療的ケア者の通う、生活介護事業所等高校卒業後の進路先について。
- 医療的ケアのある方を受けいれている就労支援事業所の例はあまり耳にしないので、実際に受け入れをしている事業所があれば話を聞いてみたい。

3. 事例検討/支援現場の実態

- 1 ケースに対しての具体的な職種間の連携や、支援内容。
- 実際に医療的ケア児を受け入れている保育園の事例などを参考にしたい。
- 小児訪問看護について、他の事業所の意見も聞きたいです。また、病院内に訪問看護を持っている方とも話してみたいです！
- 視聴して子供達との遊び方のひも人形、さっそく当事業所でも作って子供たちと楽しむ遊ぶ事が出来ています。療育に生かせる講義があると、とてもイメージできるので、経験のない看護師や介護福祉士にとってはとても良かったようです。本当にこのような企画を皆さんお忙しい中、対応していたのだと感謝申し上げます。
- NICU 看護師から在宅や事業者で実際に行う医療ケアの方法や手技を伝達するなど、資格の無い方が簡単に学べる技術動画や項目があればと思います。
- 介護、在宅生活の医療事故の防止について、看護記録・介護記録の記載について。
- 介入の開始から成長発達によって変化してくる継続した関わりかた。
- 関係機関の連携の取り方（オンライン、地域資源など）。緊急時対応（救急搬送の判断、災害時など）。
- 教育現場での取り組み。小中学校、高等学校（ST、OT、PT の方の取り組みでアップデートされてきている部分をぜひ伺いたいです）。
- 支援体制の現状。
- 今回講師をしていただいた事業所以外の医療的ケア児者の受け入れ事業所の実数や特に取り組んでいる区などがあれば取り上げてほしいなと思います。

4. 当事者/家族支援

- 当事者の理解と実際の現場、支援の様子について知りたいです。

- ご家族の想い。例えば成長に伴って感じ方考え方も変化されると思うので。
- 医療的ケアをする家族の思い。
- 医療的ケア者の方が在宅で生活をしている所が紹介されていましたが、医療的ケア児とその家族の生活の様子も取り上げてほしい。
- 家族支援について、もう少し具体的な内容を希望します。
- 家族や兄弟へのケア。
- 患者さん家族や患者さん自身のお話がとても面白かったのでその部分を継続充実してほしいと思います。
- 講義してくださった当事者の方たちのその後など聞かせていただけると幸いです。

5. 現状の掘り下げ

- もう少し全ての内容を掘り下げてほしい。
- 現状で良いと思います。
- 今回の研修がとても興味深いものだったので、その内容がより深まるような講義が聞きたいです。

6. その他

- 呼吸器などの機器の講義。
- 自分は病院で仕事をしているため、在宅に向けて病院の果たす役割、地域から病院に期待することなど、その時々の社会環境やニーズに合わせて教えていただけるとよいと感じます。
- 相談支援事業所のかかわりについて。
- コロナ禍における支援の現実と課題。
- 医療ケア児の口腔ケアやコロナ禍で難しいと思いますが、実践出来る物が良いかと思います。
- みらいつくり食堂やみらいつくり大学について、もっと知りたいなと思いました。

以上